

2012 年度 システム工学部教職部会

自己点検・評価報告書

2013 年 3 月 31 日

目 次

A. 理念・目的	1
1. 現状の説明	1
2. 点検・評価	1
3. 将来に向けた発展方策	1
4. 根拠資料	1
B. 教育内容・方法・成果	1
〈教育内容〉	1
1. 現状の説明	1
2. 点検・評価	2
3. 将来に向けた発展方策	2
4. 根拠資料	3
〈教育方法〉	3
1. 現状の説明	3
2. 点検・評価	3
3. 将来に向けた発展方策	4
4. 根拠資料	4
〈成果〉	4
1. 現状の説明	4
2. 点検・評価	5
3. 将来に向けた発展方策	5
4. 根拠資料	6
C. 内部質保証	6
1. 現状の説明	6
2. 点検・評価	6
3. 将来に向けた発展方策	6
4. 根拠資料	7

A. 理念・目的

1. 現状の説明

本学では、創立以来の実学志向の理念を有している。こうした大学の基本理念のもとに、社会において信頼と尊敬を獲得しうる教員であるとともに、工学専門教育を基礎として数理学に優れた、豊かな教育的実践能力を有する教員の育成を教職部会の理念としてきた。工科系大学として培ってきた優れた研究者や技術者の養成のための教育研究体制を基盤に、理工系分野の中等教育において創造性に富んだ個性的な教育を実践する人間性豊かな教員を養成することを目的として取り組んでいる。(資料1)

2. 点検・評価

毎年、各学年を対象とした教職ガイダンスを開催しているが、その際に理念・目的について口頭で説明している。

昨年度から、システム理工学部では教職課程の履修登録を1年後期からとした。これは、半年間、本学での学生生活を過ごすことによって、大学での学習の意義を知り、教職課程の理念について十分吟味した上で、適切な履修計画を組み立ててもらおうと考えたからである。

また、今年度は4月にOBを招き、教員志望の学生たちにアドバイスをいただく機会を設けて、現在取り組んでいる本学での学習と実際の教育現場で必要とされる能力とを結びつけるよう促した。(資料2)

3. 将来に向けた発展方策

今後は、さらにOBと在校生が交流できる機会を設けることによって、現在学んでいる専門的な教育が、中等教育の現場でどのように生かされているのかを学べるようにしていきたい。

4. 根拠資料

(資料1)『平成21年度 教職課程認定大学実地視察資料一覧 実地視察調査表』

(資料2)「本学OB教員との教職座談会開催のご案内 2012.4.19」

B. 教育内容・方法・成果

〈教育内容〉

1. 現状の説明

システム理工学部の専門教育を生かし、人間形成の幅広い教養と視点の獲得を目指すことを教育目標としている。具体的には、人間の成長や発達、教育の歴史や社会との関わり、

また教科の内容や指導法の理論・技能、教職の実践的な知識や技術などについて系統的に学修することとしている。

2. 点検・評価

教職課程では、上記の目的に沿った教育を行うために、昨年度から授業の配当学年の見直しを行った。これまで1,2年次に集中していた教職に関する科目を、1-3学年を通してバランスよく配当した。

1年次には「教職論」と、総合科目などに関する4科目、さらには選択の「教育の近代史」と「教育の現代史」を配当し、教職課程を履修することの意義について十分な時間を取りよう配慮した。2年次には、教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育心理学」「道徳教育の研究」「特別活動の研究」「教育方法・技術論」を配当し、教職としての専門的な教養と実践力を養うようにした。3年次にはさらに教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育課程論」「生徒・進路指導論」「教育相談論」「教育社会学」を配当し、さらに専門的な考察力と実践力を深めるよう促した。(資料3)

以上の取り組みにより、教職課程としてバランスのとれた科目配当とするとともに、専門科目の深まりと合わせて教職課程の学習も進行していくようにしている。こうしたカリキュラムの編成によって、各学科で学ぶ専門的な学習と、教職課程で学ぶ教育に特化した学習との結びつきについて考える機会を増やすことができると考える。

また、学生たちが学習を計画的にすすめていくために、履修の仕方についても各種の資料を提供している。学生に配布している『学修の手引き』には、学科ごとに各教科の免許取得に必要な履修科目の一覧を掲載している(資料4)。また、教職ガイダンスにおいても、モデルとなる履修計画を示した(資料5)。2学年以降では、教職カルテに単位取得科目を記入していくことで、現在の履修状況を確認できるようにしている。また、このカルテは電子化し、入力内容を学生と教員とがともに確認することができるようにし、実際の指導場面において利用しやすくした(資料6)。介護等体験や教育実習の詳細については、教職課程で年3回発行している『教職だより』を通じて学生に伝達している(資料7)。また、大学HPでも年間計画を確認できるようにしている(資料8)。

3. 将来に向けた発展方策

昨年から各学年の授業の配当を変更してきたが、学生たちの履修状況などをふまえて、常に最適なカリキュラム編成としていきたい。また、教職課程のカリキュラムは、教育に対する社会的な要求の変化を受けて、改正されることがある。来年度からは教職実践演習が始まるということもあり、授業の目的に応じた成果を挙げることができるよう、計画していくこととする。今後も、文部科学省が示す教員養成教育のカリキュラム変更に応じて、適切な内容のカリキュラム編成をすすめていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料 3) 2012 年度教職ガイダンス配付資料、3 ページ

(資料 4) 『2012 年度 学修の手引』、26-30 ページ

(資料 5) 2012 年度 2 年生教職ガイダンス配付資料、1-2 ページ

(資料 6) 「SIT STATION 内 TALENT 教職関連 教職カルテ」

<https://station.sic.shibaura-it.ac.jp/station/>

(資料 7) 『教職課程だより』 23 号、2011 年 9 月発行、3-6 ページ

(資料 8) 「芝浦工業大学ホームページ内 教職課程 教職課程年間スケジュール」

http://www.shibaura-it.ac.jp/education_course/schedule.html

〈教育方法〉

1. 現状の説明

シラバス 15 週の授業構成において、達成目標を設定し、予習・復習等の課題明示を行うことにより、学生の自主的な学修を促し、支援を行っている(資料 8)。

また、授業の実施面では、授業内容に関連づけられた小レポート、実験・実習の報告書の作成などを通して教員に必要な表現力を育成するとともに、討議やグループディスカッション、模擬授業などを取り入れることによって、プレゼンテーション能力の向上を図っている(資料 8)。

2. 点検・評価

教職課程においては、教育実習生の実践力の形成に力を入れてきた。教科指導法の授業の時間内では、すべての学生が、模擬授業を行うことができないため、実践的な教育機会において、その能力を養うことができない。そのため、本学では、事前指導の時間においても、すべての学生に模擬授業を行わせることによって、実際に授業を組み立てる企画力について学ばせている。また、事前指導では、現場の教員を招き、大学の中だけでなく、外から見て必要な力量を形成するよう促している。

併設校に送り出した教育実習生に対する評価を受け止めて、事前指導に生かすことを課題として、教育実習終了後に併設校の管理職および教科担当教諭の先生方と教職課程教員とで教育実習に関するミーティングを行っている。教育実習から戻ってきた後に行う事後指導では、報告書の作成と、口頭の報告とを行い、他の教育課程履修者や教員とも経験を共有するとともに、その内容について点検を受けることとなっている。(資料 9)

さらに、教職課程では、学生に自主的な学習を促すことを目的として、5 号館 2 階に教職コーナーを開設している。ここには、各自治体の教員採用試験情報を掲示するとともに、教職志望者のための各種のガイダンスや、外部の説明会のお知らせなどを掲示している。また、教職に関する雑誌や、各自治体の教員採用試験問題も備え付けて、学生たちが将来のキャリアに向けた学習ができる環境づくりをすすめている。

学生の学外の活動についても自主的な活動をサポートするよう取り組んでいる。現在、

高校生を対象とした補習授業に学生を派遣し、学習ボランティアの経験を積ませている(資料 10)。また、学外の児童福祉機関へのボランティアの派遣についても、さいたま市適応指導教室に希望者を送り出すなど、教職に関わる実践的な取り組みを支援している(資料 11)。

3. 将来に向けた発展方策

学生たちに教育に関わる実践的な資質を身に付けてもらうことを目的として、外部講師の積極的な活用や、休業期間を利用した学校見学を行うことによって、通常の講義内容と現場における実践的な技術・知識とを結びつけていきたいと考えている。今後は特にボランティア活動などを積極的に推進していくことも計画している。

事前・事後指導、教職実践演習などでは、併設中学校・高校や、地域の中学校との連携を図っていくことにより、現場の課題を取り入れながら、学習をすすめていくことのできる体制を作っていきたい。上記のサポートをお願いしている併設校とは、教職実践演習に関する話し合いをすすめ、教育実習生の質保障に努めることを計画している。

4. 根拠資料

(資料 9) 「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部教職」
<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900351.html>

「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部総合科目」
<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900311.html>

(資料 10) 中高大意見交換会

(資料 11) 浦和工業高校学習アドバイザー募集のお知らせ

(資料 12) 2012 年度さいたま市適応指導教室でのボランティア実績

<成果>

1. 現状の説明

システム理工学部は、教職課程の認可を受けて 4 年目であり、1 年生から教職を履修した学年が卒業するのは今年度末であるため、設置の成果が明確になるのは来年度以降であるものの、すでに過年度で教職課程を履修した卒業生 1 名が、私立の中学・高等学校で特任教諭を務めている。

教職課程の登録者は、システム理工学部の教職履修が開始される前年の 2008 年の履修登録者が 79 名なのに対し、システム理工学部での教職履修が開始された 2010 年には 191 名、1 年次では 189 名の登録があった(資料 12)。2012 年 9 月現在、システム理工学部において教職課程に登録した学生は 4 年生で 97 名、3 年生では 107 名、2 年生では 99 名となっている(資料 13)。上記の教職課程登録者はシステム理工学部の 2~4 年次在籍学生の 20% にあたる。

一昨年度から、教員採用試験の対策講座を開講した。これらの講座によって、実際に教

員として働くための心構えや、仕事の内容について知り、将来の進路選択の参考にするとともに、教員採用試験の準備をすすめるよう促している。

2. 点検・評価

本学において教職課程が工学部のみに設置されていた当時と比べて、教職課程の履修者と教員志望者が大幅に増加した。昨年度後期に開講された「教職論」(1年次の必修授業)において行ったアンケートでは、受講者91名中、教員を希望するものは42名おり、教員を希望するかもしれないとするものも47名いた。今年度のシステム理工学部の教育実習登録者は、51名となっており、2013年度の教育実習予定者は48名となっている。また、教員採用試験の受験者は22名おり、このうち一次試験通過者は、11名である。ここで挙げた在学生の教員希望者、教員免許取得見込者、ならびに教員採用試験受験者は、工学部単独で教職課程を開講していた時点と比べて大幅に増加している。

昨年10月15日から12月17日にかけて行われた「教員採用試験対策講座」の受講者は35名いた。教員採用試験の準備に取りかかっている学生が一定数いることがうかがえる。この講座の理解度は、回答者26名中22名が積極的に評価をしており、消極的な評価はなかった。(資料14)。

キャリアサポート課では、教員採用試験の準備や、各種の試験に関する学生からの相談に応じるようにしている(資料15)。ただし、現時点では周知が不十分ということもあり、まだ相談者は多くはないようである。

本学では、埼玉県、横浜市、大阪府、大阪市、京都府、京都市の中・高の数学・理科の教員(自治体により中学のみもある)と、身体に障害のある者に限定された神奈川県の各教科の教員についてはそれぞれ推薦枠をいただいている(資料16)。こうした制度は近年採用する自治体が増えつつある。今年度は、システム理工学部では埼玉県の中学校の数学教員と理科教員、京都府の中学校の数学教員に学校推薦を行った。

3. 将来に向けた発展方策

中等教育における理数系の教員養成機関に期待されている役割を受け止め、実際に現場で活躍できる教員を送り出していきたいと考えている。今後も、教員採用試験の対策を目的とした講座の点検を随時行い、学生のニーズに応じた取り組みをすすめていくようにしたい。

教職課程の履修登録をしてから教員採用試験を受験するまで、学生の様子を総合的に把握できるようにするために、教職課程の整備をすすめ、工学部、システム理工学、デザイン工学部の教職課程教員、豊洲、大宮、田町の学生課、ならびにキャリアサポート課の連携を強めていくこととしたい。

また、進路に関してはキャリアサポート課と連携し、教職に関わる多くの情報を掲示するとともに、採用試験のための対策や相談の機会を増やすようにしていくこととしたい。

さらに、このような取り組みを、学生たちに周知することにより、早くから将来に対する意識を高め、高いレベルでの学習に取り組ませていくこととしたい。

さらに、今後は、教職課程の履修者が増えることをふまえて、教職課程履修者のOB会を組織して、現職の教員と教職課程を履修する学生とが交流できる機会を設けていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料 13) 学生課「教職履修登録集計資料」

(資料 14) 「SIT STATION 内 TALENT 教職関連 教職カルテ」
<https://station.sic.shibaura-it.ac.jp/station/>

(資料 15) 「教員採用試験対策講座受講者アンケート」 集計

(資料 16) 教員採用対策個別指導のお知らせ

(資料 17) システム理工学部教職課程「教員採用試験大学推薦に関する公示」

C. 内部質保証

1. 現状の説明

教職課程においては、先に示した部会の理念・目的を実現するための、教育の質については定期的に行われる教職課程会議において確認している。教職課程の現況に対する評価を公表するにあたっては、この会議の検討内容をふまえて自己点検・評価報告書の作成を行っている。

2. 点検・評価

教職課程に関わる授業、ならびに課外活動を振り返り、教職課程の活動を現況のまとめに反映した。また、自己点検・評価報告書の作成を通して、教職課程の現況について教員間で相互点検を行うよう取り組んでいる。

現在は、学部全体で行っている授業アンケートの結果から、各自の担当する授業が学生のニーズにこたえるものとなっているかどうかについて確認している。ただし、教職課程独自のアンケートは行っていない。

また、年度末に教育職員免許状交付式において配布される『芝浦工業大学教職課程を終えて』という冊子に、教員免許状取得者に4年間の教職課程を振り返った原稿を寄せてもらっている(資料 17)。ここで4年間を通して明らかになった課題について確認できるようにしている。

3. 将来に向けた発展方策

今後も、授業アンケートの結果には注意するとしたい。また、来年度からはじまる教職実践演習において、教職課程の受講について振り返ってもらい、教職課程全体の進行に関

して見直しをすすめていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料 18) 芝浦工業大学教職課程『平成 23 年度芝浦工業大学教職課程を終えて』